

平成20年人文学部文化コミュニケーション学科
 教員研究業績一覧 (2008.1.1—12.31)
 Academic Achievements in 2008 :
 Department of Culture and Communication, Faculty of Arts

凡例：

氏名 ①著書 ②論文・研究ノート ③翻訳 ④書評・随筆等 ⑤学会・研究会等での
 報告 ⑥上記以外の業績

日本語文化講座

- 沖 裕子 ② 1) 「談話論からみた「文」と「発話」(串田秀也・定延利之・伝康晴編『シリーズ文と発話2:「単位」としての文と発話』, ひつじ書房, 45~69頁) [単著] 2) 「気づかれにくい方言「それで」(『山口幸洋博士古希記念論文集 方言研究の前衛』, 桂書房, 304~322頁) [単著] ④ 1) 「社会言語科学の魅力」(『社会言語科学会ニューズレター』第26号, 9月1日発行, 社会言語科学会, <http://www.jass.ne.jp/>) [単著] 2) 「社会言語科学会第22回研究大会開催 日本語教育の観点から言語政策を考える」(『月刊日本語』第21巻第11号, アルク, 63頁) [単著] ⑤ 1) 招待講演「同時結節という言語観」(愛知教育大学国際教育学会2008年2月16日, 於愛知教育大学) [単独] 2) 「作文と会話の日本語」(学術祭公演, 9日31日, 於韓国カトリック大学) [単独] ⑥ 1) 日本語教育学会査読協力者 2) 社会言語科学会理事 3) 同学会誌編集委員会査読協力者 4) 同広報委員長 (2007年10月~) 5) 日本語学会評議員 6) 日本語学会大辞典編集委員 (2008年1月~) 7) 韓国日本語学会学会誌編集委員 (2008年3月~) 8) 日本方言研究会世話人 (~2008年5月) 9) 国立国語研究所全国方言調査委員 10) 日本学術振興会平成19~22年度科学研究費補助金基盤研究C「日本語的発想と表現との関係に関する対照談話論的研究」課題番号19520389代表者
- 渡邊秀夫 ② 「平安時代の国文学と漢文学」(『歴史評論』702号・歴史科学協議会・2008年10月・pp.20-33) [単著] ⑤ 「平安時代の和歌文学と自然・四季—『源氏物語』の自然描写の基底—」(『源氏物語』一千年記念国際会議招待講演・2008年10月21日・24日・ワルンジャワ大学及びクラクフ市・Manggha センター) [単独] ⑥ 「川平ひとし氏を偲ぶ」(『学問のリレーのために』・笠間書院・2008年5月) [単著]
- 山田健三 ② 「書陵部蔵宋版一切経の印刷上の一問題」(『汲古』53号, 古典研究会) 平成20年6月 [単著] ⑥ 1) 解説「言語史の「復活」」(『日本語の歴史・別巻 言語史研究入門』平凡社ライブラリー), pp.499-507 (2008年1月) [単著] 2) 講演「安曇野市方言のいま」(安曇野セミナー) (2008年1月22日) [共同] 3) 出張講義「謎解き・日本語の歴史 昔の日本語の音が判る仕組み—ハ行子音を例として—」(長野県長野西高等学校, 2008年8月27日) [単独]

- 渡邊匡一 ② 1)『涅槃像考文抄』『涅槃像一座談』翻刻と紹介(その二)(『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第42号,信州大学人文学部,145-155頁)[単著]⑤「よじり不動考」(説話文学会,2008.12.14,善通寺)⑥ 1)説話文学会委員(平成19年10月~22年9月)
- 白井 純 ⑤「キリシタン版の文字遣」(第99回訓点語学会研究発表会,2008年10月,東京大学)[単独]
- 松本和也 ①中村邦生・千石英世編『名作はこのように始まるII』(ミネルヴァ書房,208頁)[共著]② 1)「語りかけるテキスト—太宰治「カチカチ山」」(『国文学』,第53巻4号,学燈社,pp.23-31)[単著]2)「記録と思索—武田泰淳『司馬遷』精読」(『二松』,第22集,二松学舎大学大学院文学研究科,pp.249-273)[単著]3)「富澤有為男『東洋』の場所,あるいは素材派・芸術派論争のゆくえ」(『文芸研究』,第165集,日本文芸研究会,pp.49-61)[単著]4)「戦後メディアにおける<無頼派>の形成—織田作之助・坂口安吾・太宰治・石川淳」(『太宰治スタディーズ』,第2号,「太宰治スタディーズ」の会,pp.134-150)[単著]5)「“交通”(コミュニケーション)の諸相—川上弘美「神様」から考えられること」(『月刊国語教育』,第28巻第6号,東京法令出版,pp.54-57)[単著]6)「“太宰治戦後戯曲”を読むために—「春の枯葉」精読—」(『立教大学日本文学』,第101号,立教大学日本文学会,pp.39-51)[単著]⑤ 1)「井上ひさし『人間合格』—“太宰治と現代演劇”という視座から」(日本近代演劇史研究会2008年度5月例会,2008年5月31日,共立女子大学)[単独]2)「「富士」との対話,重層化されるプロット—太宰治「富嶽百景」を読む」(「太宰治スタディーズ」の会,2008年12月7日,らんぶる)[単独]⑥ 1)「さまざまなアプローチ,さまざまな<新体制>—太宰治「清貧譚」を読む〜」(三鷹ネットワーク大学講座・太宰治を読む百夜百冊,2008年5月7日,三鷹ネットワーク大学)2)「恋愛と死はいかに描かれたか—『風立ちぬ』を中心に」(堀辰雄文学記念館講演会,2008年10月5日,追分区公民館)

比較言語文化講座

- 須澤 通 ②「Mechthildのミンネにおける visio と gustus—中世宮廷文学におけるミンネとの比較研究—」(『人文学部論集<文化コミュニケーション学科編>』第42号,信州大学人文学部,1頁~14頁)[共著]
- 滝澤 壽 ①『近代フランスにおける民衆文化の諸相と文学への影響』(平成18~19年度科学研究費補助金研究成果報告書,文旭堂印刷所,5-15頁)[共著]② 1)「大田直次郎と露遣日使節レザーノフの握手—蜀山人大田南畝と外つ国の人—」(『クインテット』第28号,『クインテット』刊行会,1-10頁)[単著]2)「日本の地を踏んだ最初のフランス人のこと—フランソワ・カロンと『日本大王国志』のことども—」(『クインテット』第28号,『クインテット』刊行会,105-120頁)[単著]
- 氏岡真士 ② 1)「沙悟浄とカメ」(『吉田富夫先生退休記念中国学論集』汲古書院,199-210頁)[単著]2)「柏林本《列国志伝》巻八筋記」(『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第42号,信州大学人文学部,15-33頁)[単著]
- 渋谷 豊 ③F. ヴェイエルガンス『母の家で過ごした三日間』(翻訳,白水社)[単著]④

- 「翻訳ほりだし物」(「東京新聞」4月2日夕刊・「中日新聞」4月3日夕刊) [単著] ⑤
 「金子光晴のバリ」(日本比較文学会東京支部9月例会, 9月20日, 日本大学) [単独]
 野津 寛 ① 1) 『ギリシア喜劇全集<第1巻>』(岩波書店, 2008年7月) [共著] 2) 『ギリシア喜劇全集<別巻>』(岩波書店, 2008年11月) [共著] ② “Parodos I (204-283) des Acharniens” (『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第42号, 35-50頁, 信州大学人文学部, 2008年3月) [単著]
 吉田正明 ① 「フランス民謡の諸相」(『近代フランスにおける民衆文化の諸相と文学への影響』, 平成18~19年度科学研究費補助金, 基盤研究(C)(2)研究成果報告書 [課題番号: 18520183], 研究代表者: 滝澤壽, 17-34頁, 2008年3月) [単著] ② 「プレヴェールの『家族の思い出, あるいは看守天使』をめぐって」(『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第42号, 信州大学人文学部, 51-67頁, 2008年3月) [単著] ⑥ 学長裁量経費により信州大学国際シンポジウム「新たな信州とフランス語圏の文化交流~歴史をさかのぼり未来に向けて」(於信州大学人文学部) を主催 (10月11日・12日)

英米言語文化講座

- 清水 明 ② 「モームの映画の真髓」(*Cap Ferrat* 5号, 日本モーム協会, 17~20頁) [単著] ③ 『ピラミッドにきた女-アントニー・トロロブ短編集II』(鷹書房弓プレス, 39~87頁) [共訳] ④ 書評: 林大地 『見習いドクター患者に学ぶ ロンドン医学校の日々』(集英社) (『英日文化』93号, 英日文化協会, 68~69頁) [単著] ⑤ シンポジウム・パネリスト「ダンディズム, その主題と変奏-今, ダンディズムとは?そして粹とは?」(第60回日本英文学会中部支部大会, 10月18日, 信州大学人文学部) [共同]
 杉野健太郎 ① 『リスニングはこう学べ』, 日本実業出版社 (2008年8月10日) [共著] ② 1) 「センター試験のリスニング導入と高校英語教育-長野県野沢北高等学校の例を中心として」(『信州大学人文学部紀要<文化コミュニケーション学科編>』第42号, 2008年3月, 95-111) [共著] 2) スイミングとアメリカ-F. Scott FitzgeraldとJohn Cheeverの“The Swimmer” (『SOUNDINGS』34, 2008年12月, 163-80, サウンディングス英語英米文学会, 査読あり) [単独] ④ 日本ソール・ベロー協会 『ソール・ベロー研究-人間像と生き方の探求』, 『中部アメリカ文学』11号 (2008年4月) 所収 ⑤ ミニシンポジウム「フィッツジェラルドと映画」(塚田幸光, 関戸冬彦とともに), 個人タイトル「F・スコット・フィッツジェラルドとアメリカン・ドリームのゆくえ」, 日本スコット・フィッツジェラルド協会, 2008年10月11日, 九州大学 ⑥ 1) 講演「リスニング教育の展望」, 長野県高等学校教育文化会議諏訪支部英語科研究会, 長野県下諏訪向陽高校, 2008年9月20日。2) 学会誌編集委員会委員長, 日本映画学会学会誌『映画研究』第3号 (2008年12月刊行)
 花崎美紀 ① 1) 唐須教光編 『開放系言語学への招待-文化・認知・コミュニケーション』(慶応大学出版社, 241頁) [共著] 2) Practiced-Based Reconsideration of Linguistic Relativity: PDN Approach to Negative Questions (慶応大学 博士論文) [単著] ② 1) 「英語と日本語の<結果志向><過程志向>を再考する」(JELS25, pp.305-307) [共著] 2) 「大学教育の質を高めるための高大連携のあり方 -英語の前置詞の学習を例として

一) (『信州大学人文社会科学研究』2, pp.90-104) [共著] ⑤1) “The Semantics of Till/Until/To & On/Upon/In” (ELSJ International Spring Forum, 4月27日, 東京外国語大学) [共同] 2) 「日英語における相同性を考える —〈有界性〉と〈無界性〉」(日本英文学会中部支部大60回大会, 10月18日, 信州大学) [共同] ⑥1) 「英語らしい英語をはなすためには ～複数編～」(英語学・英米文学分野と長野県松本美須ヶ丘高校とのコラボレーション事業の一貫としての特別授業, 美須ヶ丘高校, 10月23日) 2) 「英語らしい英語をはなすためには ～接続詞編～」(英語学・英米文学分野と長野県松本県ヶ丘高校とのコラボレーション事業の一貫としての特別授業, 県ヶ丘高校, 11月18日) 3) 「英語らしい英語をはなすためには ～複数編～」(英語学・英米文学分野と長野県松本県ヶ丘高校とのコラボレーション事業の一貫としての特別授業, 県ヶ丘高校, 12月17日) 4) 日本英文学会中部支部事務局長(2006年10月～) 5) 日本英文学会中部支部大60回大会実行委員長 6) 日本英文学会中部支部理事(2008年10月～)

飯岡詩朗 ② 「占領期長野市におけるアメリカ映画の上映 市営中央映画劇場をめぐる」『長野』(長野郷土史研究会)第261号, 5-14頁 [単著] ⑤ 「「古い」をめぐる葛藤 —古典期ハリウッド男性スターの戦後—」(日本英文学会中部支部第60回大会・シンポジウム「ダンディズム, その主題と変奏 —今, ダンディとは? そして粹とは?—」, 10月18日, 信州大学) [単独]

芸術コミュニケーション講座

船津和幸 ② 「『演戯の鏡』(*Abhinayadarpana*) 翻訳ノート(2)」(『信州大学人文科学研究論集・文化コミュニケーション学科篇』第42号, pp.113-132) [単著] ⑥ 1) Lecture & Demonstration “Lokadharmi and Natyadharmi in Martial Arts” (III International Festival of Anthropology of Dance: On The Silk Route of Gestures, Krakow, Poland, 2008.3.12) 2) Lecture & Demonstration “Is Kalaripayattu the Roots of Karate?” (Lalish Theaterlabor, Wien, Austria, 2008.3.15) 3) 芸術コミュニケーション講座公開講座「やっぱりヴィーン音楽物語」(まつもと市民芸術館共催・テレビ信州助成, 企画・コーディネーター)(まつもと市民芸術館, 2008.5.10, 6.14, 7.12, 8.9, 10.11, 11.15, 12.13) 4) 芸術コミュニケーション講座公開講座「インド武術カラリパヤットWS」(まつもと市民芸術館共催, 企画・コーディネーター, 講演「カラリパヤットと空手とダルマの怪しい関係」)(まつもと市民芸術館 2008.5.10&11), 5) 出前講座「インド音楽は面白インド」(中野市図書館, 2008.11.2)

金井 直 ② 1) 「貧の範囲 アルテ・ポーヴェラ再検討」(『豊田市美術館紀要』第1号, pp.4-12.) [単著] ④ 1) 「素描」(『信濃毎日新聞』2008年4月15日, 7月8日, 10月15日) [単著] 2) 「関係の灼熱を求める共同性の顕現」(『美術手帖』vol.60, No.915, pp.182-183.) [単著] ⑤ 1) 「ドローイング再考: テクネーとアートのはざままで」(シンポジウム, 2008年9月13日, 東京国立近代美術館) [共同] 2) 「インドとなることスボード・グプタの“局地性”」(シンポジウム “Count 10 Before You Say Asia” における発表, 2008年11月23日, 国際交流基金) [単独] 3) 「ドローイングを語る」(対談, 2008年12月13日, 京都国立近代美術館) [共同] ⑥ 1) 「ムンバイ, 群島的」(『消失点: 日本の現代

美術』〈展覧会報告書〉, 国際交流基金, pp.4-5.) [単著] 2) 「彫刻に寄せる眼」(『REAR』第19号, pp.19-21.) [単著] 3) 講演「美術におけるコミュニケーション能力を育てるには」(中信地区高校美術教師研修会, 2008年11月4日, 松本深志高等学校) [単独] 4) 信州大学講座「一荻原守衛を再発見するための一西洋彫刻史入門」(2008年12月9日, 碌山公園研成ホール) [単独]

北村明子 ②「舞踊作品における振付とその生成過程」(『美術解剖学雑誌』第12巻第1号, 平成20年7月, 58-64頁) [単著] ⑥ダンス作品: 1) “Paradiselougue new ver.ー私たちの楽園” (日本芸術文化振興会舞台芸術振興事業公演, 2008年3月14~16日, 新宿パークタワーホール) [単独演出] 2) “ghostly round integral ver.” (芸術文化振興基金助成事業公演, 2008年3月29, 30日, 新宿パークタワーホール, Singapore da: ns festival主催, 2008年10月18, 19日, Esplanade Theater, Sidance 2008 Seoul International Dance Festival主催, 2008年10月25日, Towol Theater of Seoul Arts Center) [単独演出] 3) “Dovetail” (芸術文化振興基金助成事業公演・EUJapan Fest, 2008年10月11日~13日, OMEGA TOKYO) [共同演出] 4) “finks” (Salihara Festival, 2008年11月28日, 29日, Salihara Theatre Jakarta) [単独演出] 5) ワークショップ「振付を学ぶ」(コミュニティー・アーティスト・インターシップ・プログラム, クリエイティブ・アート実行委員会主催, 2008年12月4日・11日・18日, 森下文化センター) [単独]